

# 令和 8 年度事業計画書

公益財団法人熊本市美術文化振興財団

## 【財団の目的】

美術をはじめとした文化芸術に関する調査研究、教育普及、展覧会事業等を基礎とし、美術館等の活発な管理運営を推進することを通じて、教育や福祉の充実、産業の活性化、地域の再生など様々な分野において、文化芸術の持つ創造性を活用し、心豊かな市民生活を実現するとともに都市の活力と魅力を高める、熊本市のまちづくりに寄与することを目的とする。

## 【財団の目的を達成するための事業】

- (1) 美術館等における文化芸術の調査研究等事業
- (2) 美術館等における文化芸術活動の支援及び教育普及等事業
- (3) 美術館等における展覧会事業その他の文化芸術の振興事業
- (4) 前1号から3号の事業を行うための美術館等の管理運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

＝ 熊本市からの受託事業 熊本市現代美術館の指定管理業務 ＝

2024年4月1日-2029年3月31日（5年間）：非公募（3年目）

## 【熊本市現代美術館の設置目的】

市民が美術文化を享受するとともに、美術に関する知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与すること

## 【熊本市現代美術館の管理にあたっての基本理念】

指定管理者は、美術館の設置目的と熊本市文化芸術振興指針に基づき、管理にあたる。  
熊本市と指定管理者は、熊本市の文化施策の目指すものを共有し、指定管理者がその補完を行うことができるよう、連携・協力をする。

## 【基本理念に基づき、財団がめざす、熊本市現代美術館の方向性】

### **【ミッション】**

熊本市現代美術館は、多様なものを受け入れる寛容なまちと市民が心豊かに生きることができる未来を創造する。

### **【ビジョン】**

熊本市現代美術館は、一人ひとりの市民にとって、なくてはならない「現代の美術館」をめざす。

## 令和 6 (2024) 年—令和 10 (2028) 年 運営テーマ

### 「思いがけない明日 (あした) へ」

私たちは、すべての市民をウェルビーイングな「思いがけない明日へ」誘うために、多様な市民、団体、行政と連携し、美術館をハブとして多様な価値観に市民が出会い、社会が成熟するためのアートエコシステムを構築します。

### 【美術館の管理に関する基本的業務】

- (1) 来館者が快適に過ごせるサービスの実施及びサービス向上のための工夫 **〔共通〕**
  - ① 基本的なサービス
    - ・利用者の平等な利用の確保
  - ② 来館者へのサービス向上及び館内ホスピタリティの充実
  - ③ 安定した施設管理能力の確保
    - ・職員の資質向上 (研修等)
  - ④ 市との連絡調整、苦情対応
  - ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策取組み 他

## 1. 利用者の平等な利用の確保

- (1) 全ての来館者が等しく利用できる環境づくりのための方策

- ① ホームギャラリーの運営
- ② キッズサロン (まちなか子育てひろば) の運営協力
- ③ アートラボマーケットの運営
- ④ アートスカイギャラリーの運営
- ⑤ その他の館内運営

フリースペースをはじめ、いつでも快適に利用することができるよう、徹底した管理・点検を行う。

子育て世代や高齢者世代、障がいのある方、海外からの来館者に向けた対応をさらに向上させる。

## 2. 公の施設の効用を最大限に発揮するためのサービス

- (1) 美術館広報及びセールス計画の充実のための取り組み

- ① パンフレット等作成
  - ・美術館リーフレット等の作成及び頒布
- ② ホームページ作成、管理及び更新
  - ・ICT の活用 (HP・X・facebook・Instagram・YouTube 等)
- ③ 幅広い広報手段の活用
  - ・アートスカイギャラリーにおけるフライヤー設置での情報提供

- (2) 地域振興・活性化に対する取り組みと、地域・学校・その他団体・施設等との連携の方策
- ① 中心商店街、熊本市各課等との連携
  - ② 教育機関との連携
  - ③ 市内外、県外の文化施設との連携
- (3) サービス向上と利用促進
- ① 事業内容等に関するアンケートを常設し、月毎に集計、分析を行う。
  - ② 各種イベントにおいても、事業内容等に関するアンケートを実施し、次回の事業の参考にして、美術館の利用促進を図る。

### 3. 市民の声が反映される管理

- (1) 利用者ニーズの把握に対する取り組みとその反映の方策
- ・館内アンケートを常設し、美術館や事業に対する来館者の意見を分析する。
  - ・電話やメールでの意見・提案・問い合わせ等について、迅速・真摯に対応する。
  - ・外部審議員とともに取り組む中・長期的な課題の改善と解決。
- (2) 美術館の使用許可、取消、停止命令に関する業務 **〔収益・公2〕**
- ① アートロフト、会議研修室 **〔収益〕**
  - ② 美術品特別利用の使用許可に関する業務一般 **〔公2〕 (2) 公表方法3**
- (3) 美術館の施設維持管理に関する業務 **〔共通〕**
- ① 美術館施設維持管理業務
    - ・設備運転管理業務
    - ・有人警備業務
    - ・清掃業務
    - ・AV設備保守点検業務
    - ・防火設備定期検査業務
    - ・セキュリティ設備・監視カメラ保守点検業務
    - ・調光設備保守点検業務
    - ・放送音響設備保守管理業務
    - ・美術情報システム運用保守管理業務
    - ・ホームページ維持管理業務
    - ・図書装備業務
    - ・施設賠償責任保険・ガラス保険業務
    - ・アートロフト手動式昇降ステージ保守点検業務
    - ・アートロフトプロジェクタ設備賃貸借業務
    - ・電話設備賃貸借業務
  - ② 美術館施設修繕等業務

企画事業 1 美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関する業務 [公2]

ア 事業内容 1, 2, 3, 4、ア 公表方法 1, 2, 3、イ

- (1) 美術品の収集に関する業務 (ア 事業内容 1, 2)
  - ① 調査及び報告
  - ② 収集委員会の運営支援
- (2) 美術品等の保管に関する業務 (ア 公表方法 2, 3 イ)
- (3) 美術品等の展示に関する業務 (詳細は【1】-【5】) (ア 公表方法 1 [公1 (2) ア])
- (4) 収蔵品の利用に関する業務 (ア 事業内容 4 イ)
  - ① 他館への貸出
  - ② 情報公開
- (5) 展覧会の企画・開催等に関する業務 [公1]

【1】メインギャラリーでの展覧会開催 アー1、エ

《目標入場者数：67,000人》

①	秀島由己男展 ダークファンタジー／ミステリアス 水俣が生んだ異才	
	4月18日(土)～6月21日(月)(56日間)	<目標入場者数：15,000人>
	別紙のとおり	
②	つぐ minä perhonen (ミナ・ペルホネン) 展	
	7月4日(土)～9月6日(日)(56日間)	<目標入場者数：43,000人>
	別紙のとおり	
③	プラカードのために 展	
	9月19日(水)～11月29日(日)(59日間)	<目標入場者数：9,000人>
	別紙のとおり	

【2】井手宣通記念ギャラリーでの展覧会開催 アー2

井手宣通の作品を中心に収蔵作品を紹介・展示

- ・新規収蔵作品展 他

【3】ギャラリーⅢでの展覧会開催 アー2

熊本または九州ゆかりのアーティストや文化にスポットを当て、応援する展覧会

- ・熊本地震と文化的処方ー私の心が動きはじめるときー展  
(市民参加型インスタレーション、熊本出身の美術家・写真家の作品展示含む)
- ・ソー・ソウエン展 (福岡県出身の現代美術家) 他

【4】 エントランス・階段ギャラリー等への作品展示 **ア-3**

- ① 収蔵作品の公開、子どもの作品展示
- ② まちづくり関連の展示

\*展示室1-3、井手宣通記念室、収蔵庫の照明工事のため、明年1-3月はアートラボマーケットを拠点にフリーゾーンや屋外などでアートプロジェクトを展開する。

	プロジェクト：梅田哲也「Echoes, Reflections」(仮)ほか
④	1月6日(水)～3月22日(日) (66日間)
	別紙のとおり

【5】 次年度以降開催予定企画展の企画・準備 **ア-1,2,3**

企画事業2 美術に関する調査及び研究に関する業務 **〔公2〕ア 事業内容1,2,3,4**

- (1) 郷土の特色ある美術や文化等の調査・研究
  - ① 熊本及び九州に根付く芸術文化やアーティストに関する調査・研究
  - ② 生人形など収蔵作品に関する調査・研究
- (2) 現代美術を中心とした多彩な芸術分野の調査・研究
- (3) 美術館運営や人材育成等、文化施策に資する調査・研究
  - ① アートマネジメントに関する調査・研究
  - ② ミュージアム I P M等に関する調査・研究
  - ③ 災害時における文化施設の役割に関する調査・研究
  - ④ 外部審議会運営に関する調査・研究
- (4) その他市民文化の発展に寄与する調査・研究
  - ① 市民参加型文化・芸術プロジェクトに関する調査・研究
  - ② アートを活用したまちづくりに関する調査・研究
- (5) 上記各号の調査・研究成果の発信
  - ① 調査・研究によって蓄積された学術的成果については、美術館活動（展覧会・講演・論文寄稿・出版・ホームページ等）を通じて広く国内外に発信

企画事業3 美術に関する情報の収集及び提供に関する業務

- (1) 国内外の芸術活動に関する情報等の収集・提供 **〔公2〕ア 公表方法1, 2, 3**
- (2) 地元の芸術活動に関する情報等の収集・提供 **〔公2〕ア 公表方法1, 2, 3**
- (3) 地元で開催される芸術活動に関する後援等 **〔公3〕イ-3**

#### 企画事業4 美術等の普及並びに市民の創作活動等の指導及び助言に関する業務 [公3] ア

※ コロナ禍以後の方向性として、より一層の安心安全な運営を目指す

- (1) 展覧会に関連する教育普及及び活動の実施
  - ① ギャラリーツアー
  - ② 探検ツアー
  - ③ 出品作品リスト、鑑賞補助シート等の設置
- (2) 芸術文化に関わる体験や創作活動の場の提供
  - ① ワークショップ等の開催
    - ・アートラボマーケットでの創作活動（ミュージアムショップとの共同運営）
- (3) 文化活動への支援・協力
  - ① 中心商店街等との連携
    - ・ストリートアートプレックスの協働開催
    - ・上通アートプロジェクトとの連携
  - ② PTA 学級活動や子ども会活動へのプログラム支援
- (4) 人材の育成
  - ① 地元ゆかりのアーティストの支援
  - ② 音楽、ダンス等の表現者の発表の機会の提供
  - ③ 美術館における実習や研修（学芸員実習等）
- (5) ボランティア活動の支援
  - ① 布絵本、発送、ピアノ演奏、読みがたり等
- (6) 子どもや学生等を対象とした企画
  - ① アートバス事業
    - ・市内小学校の1学級～1学年程度：年間5～6校程度
    - ・高齢者福祉施設（年1回程度）
  - ② アートプログラム（熊本市内の小中学校等へアーティストを派遣）：年間4校程度
  - ③ 1年生ようこそカードの発行（新1年生全員に子ども向け美術館パンフレットを配布。持ってくると大人一人が無料となる。ワークシート参加者に記念品プレゼント。）
  - ④ 子育てひろばワークショップ
  - ⑤ 美術を学ぶ中高・専門・大学生との交流

#### 企画事業5 図録・案内書等の作成及び頒布に関する業務 [公1] アー1,2

- (1) 収蔵品等に関する案内書、解説書等の作成・頒布
  - ① アートワークの解説パネル設置
  - ② 井手宣通の紹介冊子配布
  - ③ 井手宣通記念ギャラリーでコレクション展示の案内・所蔵作品展解説シート配布
- (2) 展覧会等の目録を作成
  - ① 展覧会毎に配布する出品作品リスト一覧

- (3) 展覧会等の図録の作成及び頒布
- (4) 年報、調査研究の報告書等の作成及び頒布 [公2 公3]
  - ① フリーペーパー「アートキッスレター」(年5回程度発行) [公3] イー2
  - ② 報告書「アート・ガマダス」 [公2] ア 公表方法1
    - ・講演会の載録や、研究論文などホームページにて随時掲載
  - ③ 美術館での催し物や活動の内容を、館のホームページにて公表

#### 企画事業6 講演会、講習会、講座、研究会等に関する業務 [公1] ウ

- (1) 展覧会等に関する講演会等の開催
  - レクチャー・カレッジ (担当学芸員による講演会・トーク)
  - ・秀島由己男展で「担当学芸員による30分間スライドトーク(全4回)」として開催予定
    - ① 1・2章:5月24日(日)
    - ② 3・4章:5月30日(土)
    - ③ 5・6章:6月7日(日)
    - ④ 7・8章:6月13日(土)
- (2) 展覧会記念講演会
  - ・秀島由己男展での記念講演会
    - 講師:西山真美(和水町教育委員会・学芸員)4月18日(土)
    - 講師:前川清一(熊本県文化財保護審議会委員)5月9日(土)他
- (3) アーティスト・トーク
  - 展覧会の出品アーティスト自らが展覧会や作品について語る講演会
  - ・「プラカードのために」展で開催予定
  - 日時未定
- (4) シンポジウム・研究会
  - ・シンポジウム「地震10年シンポジウム 熊本地震からの復旧・復興と地域ミュージアムの役割—市民の声と共に進めてきたこの10年、そしてこれから—」
  - パネラー:熊本市動植物園長・松本充史氏
  - 熊本県立美術館学芸課長・林田龍太氏
  - 熊本市博物館学芸員・竹原明理氏(現在熊本県出向中)
  - 東海大学総合農学研究所特任教授・荒木朋洋氏
  - 地震ミュージアム KIOKU 統括マネージャー・久保堯之氏
  - 文化財保存修復学会副理事長(災害担当)・日高真吾氏
  - 熊本市現代美術館副館長・岩崎千夏
  - 司会・進行:富澤治子(熊本市現代美術館主幹兼主査・学芸員)
  - 6月13日(土) 予定 他

## 企画事業7 その他、美術館の設置目的を達成するために必要な事業（自主事業）

### 1 その他、各種団体との連携

- (1) 市内外の美術、文学、まちづくり等の団体と多様な文化を切り口にして協力、連携体制をとることで市民に対して質の高いサービスを提供
  - ・大人の工芸「匠の手触り」（市役所イベント）（予定）
- (2) 行政や民間のアートを活用した事業への協力 他

### ※設置目的を達成するためのモニタリングの方策

- (1) 熊本市における、市民とともにある「現代の美術館」の在り方を検証する
  - ・外部審議会を設置し、外部審議員（任期2年）とともに当館の課題を検証し、中長期的な改善に取り組む
  - （本年度は、課題解決ミーティングで把握した課題について専門家に相談する予定で、審議会を設置するかは未定）

### ※熊本市の文化施策への連携、協力のための方策

- (1) 熊本市各課と交流を密にすることで情報を共有する
- (2) 財団が持っているネットワーク・経験を活かして「まちづくり」に関するイベントを実施する
- (3) 上質な生活都市熊本の実現に近づけるため、教育・福祉・産業など様々な分野と連携した取組を進め、アートの視点を通じて地域の問題解決に貢献する
  - ・日比野館長の「ご用聞き」（希望する各課との懇談、2021年度より継続）
  - ・文化政策課との連携による文化的処方推進室の協働

## 秀島由己男展

### ダークファンタジー／ミステリアス

水俣が生んだ異才

2026年 4月18日(土)～6月21日(月) (56日間)

戦後日本版画の重要作家のひとり、熊本県水俣市出身の画家・版画家の秀島由己男(1934-2018)の大回顧展です。

秀島は2018年に急逝し、作品・資料などは遺族から和水町に託されました。

2020年から5年間、当館がアドバイスや共同作業を行いながら作品調査を進めてきたその調査の成果をもとに、秀島の1950年代～2010年代の画業の全貌を、和水町所蔵作品を中心に出品作品約260点で振り返るものです。初個展より60年、水俣病公認確認70年を記念します。



安永落子との歌画集「蝶紋」のための作品  
《蝶(歌画集「蝶紋」)》1977年、熊本市現代美術館蔵

新発見資料 モデルをする秀島の写真、1970年以前、和水町蔵

## つぐ minä perhonen

2026年7月4日（土）—9月6日（日）（56日間）

2025年に創設30周年を迎えたファッション・テキスタイルブランド、ミナ ペルホネン。ミナ ペルホネンのものづくりは、テキスタイルの図案からはじまります。本展では、独自のプロダクトを生み出してきたその活動を、貴重な原画やテキスタイルにくわえ、刺繍、織、プリント工場の様子などを通してご紹介します。



“surplus” 2003-04 a/w （切れ端をヒントにデザインされたテキスタイル）



Chorus（コーラス）のゾーン 世田谷美術館での展示風景

# プラカードのために

9月19日（水）～11月29日（日）（59日間）

美術家・田部光子(1933–2024)は、1961年に記した文章「プラカードの為に」において、「大衆のエネルギーを受け止められるだけのプラカードを作」り、「たった一枚のプラカードの誕生によって」社会を変える可能性を語りました。

田部の言葉と作品を出発点とする本展覧会は、社会の中で覆い隠されてきた経験や心情に目を凝らし、思考し、そして自ら実践することで、既存の制度や構造に問いを投げかける7名の作家のグループ展です。

出品作家：田部光子、牛島智子、志賀理江子、金川晋吾、谷澤紗和子、飯山由貴、笹岡由梨子



田部光子《人工胎盤》1961年/2004年 マネキン、ピンポン玉、合繊綿、真空管、電気コード、ヒートン、釘、合繊布 熊本市現代美術館蔵



牛島智子のインスタレーション  
国立国際美術館での展示風景

LED 交換期間中のプロジェクト

## 梅田哲也「Echo, Reflection」(仮) + パフォーマンス

2027年1月6日(水)～3月22日(月)(66日間) 予定

LED 交換のためギャラリーを閉場している期間、ギャラリー以外のスペースにて、熊本出身のアーティスト梅田哲也を中心とした空間インスタレーションと、その空間を舞台装置に見立てて、複数のアーティストのパフォーマンスを行います。

経済や世界情勢の先行き不透明性がもたらす現代の閉塞感に揺すぶりをかけるように、目には見えない自然現象、光や水などの捉えどころのない物質、ポリフォニックな音などを素材に、遠くへと想像力を広げる梅田による空間展示、また、その空間作品を体感するパフォーマンスの他、問題行動トリオ(佐久間新、砂連尾理、野村誠)や、ソー・ソウエンなど、身体や音を媒介に、遠くの世界と応答するように表現するアーティストらによる空間とのコラボレーション・パフォーマンス等を予定しています。

また、美術館の機能を裏返して見せるような仕掛けや、美術館内の空間が限られていることを逆手に取って、美術館と日常空間を結ぶ美術館外での展示や鑑賞ツアー等も検討中。



TCAA 2024-2026 受賞記念展「湿地」展示風景  
(東京都現代美術館)

\* 写真はいずれも参考作品



問題行動トリオ+山本聖子《Echo-Logy》  
2025年



ソー・ソウエン 《The Egg》